
保存修復学 専門用語集



特定非営利活動法人
日本歯科保存学会 編

第2版

Glossary of Operative Dentistry 2017

The Japanese Society of Conservative Dentistry

医歯薬出版株式会社

あ

1 IPC法 あいびーしーほう

indirect pulp capping

→暫間の間接覆髄法

2 アイボリーのシンプルセパレーター

あいぼりーのしんぷるせぱれーたー

Ivory simple separator

即時に歯間を分離するための用具で、くさび形をしており前歯部に使用する。先端のくさびが歯肉に食い込むのを防ぐために、モデリングコンパウンドで支えをつくることもある。

3 アクチノマイセスビスコーサス

あくちのまいせすびすこーさす

Actinomyces viscosus

放線菌群に属する通性嫌気性のグラム陽性桿菌。fibrilという細長い表面構造物を持ち、ペリクルなどの歯面付着、他の菌種 (*Streptococci*) との凝集を媒介する役割をもつ。プラーク中の構成菌種で、根面齲蝕や深部象牙質齲蝕病巣から高率に検出される。

4 圧子 あっし

pressor

→圧接子

5 圧接子 あっせつし

pressor

同義語 圧子

成形修復用材料を窩洞内に充填し賦形する際に使用する小器具・材料（プラスチックマトリックスやストリップなど）をいう。圧接子を使うことによって、修復物を緻密にし窩壁適合性をよくすることから辺縁封鎖性を高め、表面粗さの劣化を一定期間抑制する。コンポジットレジンでは表面未重合層の形成を回避できる。

6 圧迫鋳造 あっばくちゅうぞう

pressure casting, gas pressure casting

鋳型上面で合金を溶融し、完全に合金が溶融した状態で鋳造圧を加える方法。鋳造圧として、空気圧やアルゴンガス圧を使用する。初期の鋳造圧を高く加えることができるうえ、とくにガス圧を利用した鋳造では、鋳造圧を任意に設定できる利点がある。欠点としては、蒸気圧を用いた場合は鋳造圧が一

過性であり、鋳型の通気性が不良の場合には溶湯に加わる鋳造圧と鋳型空洞内の圧力差がなくなり、溶湯が流れ込まずに鋳造に失敗することがあげられる。

7 後戻り〔漂白の〕あともどり

relapse

漂白処置後、経時的に色が処置前の状態に近づくこと。原因としては、再度の着色、分解着色物の再結合、残存薬剤の変色などが考えられる。漂白後の色を維持するためには、数カ月ごとに再漂白処置を行う必要がある。

8 アパタイト あばたいと

apatite

リン酸塩鉱物の総称であり、その一種にハイ(ヒ)ドロキシアパタイト ($\text{Ca}_{10}(\text{PO}_4)_6(\text{OH})_2$) やフルオロアパタイト ($\text{Ca}_{10}(\text{PO}_4)_6\text{F}_2$) を含む。歯や骨など、生体の石灰化組織の無機成分を構成している。

9 アブフラクション あぶふらくしょん

abfraction

強い咬合や咬合異常によって歯頸部エナメル質および象牙質に引張り応力が生じ、小破折や欠損を生じることがある。また、欠損の拡大には歯ブラシ摩擦の関与が考えられることから abrasion と fraction を合わせてアブフラクションとよばれる。

10 アブレイシブポイント あぶれーしぶぽいんと

abrasive point

→カーボラダムポイント

11 アマルガム用合金 あまるがむようこうきん

amalgam alloy

水銀との金属化合物であるアマルガムをつくるための合金。歯科用アマルガム用合金は、銀、スズ、銅、亜鉛が基本的な構成成分である。亜鉛を含有していないものは無亜鉛アマルガム用合金と称される。従来型アマルガム用合金に対し、銅の含有量を高めた高銅型アマルガム用合金が、優れた物性を有することから用いられるようになった。合金形状によって、削片状合金、球状合金、混合型合金に分類される。粉末はガラス瓶に入れて供給され、専用のディスプレイを取りつけて使用する製品が一般的であるが、タブレット状のものや、水銀と組合せたカプセル入りのものもある。

273 クリアランス くりあらんす

clearance

形成面と対合歯面との距離。鑄造修復では、機能咬頭で1.5 mm以上、非機能咬頭で0.5 mm以上が必要である。

274 クリープ くりーぷ

creep

材料に一定の応力が持続的に作用するとひずみと塑性変形が増大する現象。塑性変形は時間に依存しないのに対し、クリープは時間が経つほど変位量が増える。この現象は、温度の影響を受けやすく、環境温度が物体の融点に近いほど起こりやすくなる。アマルガムではクリープ値が小さい程、辺縁破折が少ないといわれている。

275 クリストバライト埋没材

くりすとばらいとまいぼつざい

cristobalite investment

石膏系埋没材の1つで、耐火材としてクリストバライトを用いたもの。加熱するとクリストバライトが200~300℃で α 型から β 型へ変態するので、このあたりで急速に膨張し、その後400~800℃の広い範囲で安定して十分な膨張量を示す。

276 グルカン ぐるかん

glucan

天然の多糖のなかで最も多量に分布しているD-グルコースから構成される多糖の総称。ミュータンスレンサ球菌はショ糖を基質として不溶性および水溶性グルカンを生成する。これらは歯面へ細菌が付着・凝集させる因子となり、プラーク形成に深く関与している。

277 グルコースクリアランステスト

ぐるこーすくりあらんすてすと

glucose clearance test

齲蝕リスク診断法。グルコース（ブドウ糖）溶液を口に含み1分後に吐き出し、その後一定時間ごとに試験紙を用いて口腔内に残存するグルコースを測定する。一般に、5分以上口腔内にグルコースが存在すれば齲蝕リスクは高いと判断する。

278 グルコシルトランスフェラーゼ

ぐるこしるとらんすふえらーぜ

glucosyltransferase

グルコース重合体であるグルカンを生成する酵素。ミュータンスレンサ球菌などは数種のグルコシルトランスフェラーゼを菌体外および菌体表面に分

泌し、ショ糖を基質として非水溶性および水溶性グルカンを多量に生成する。プラークの形成、成熟、維持にかかわる重要な因子である。

279 グルタルアルデヒド ぐるたーあるあでひど

glutaraldehyde

アルデヒド系の殺菌消毒薬である。アルカリ溶液中で強い殺菌作用を発揮する。毒性はホルマリンに比べて低く、そのため根管消毒薬として使用される。また象牙質接着のプライマーに配合される場合もある。

280 グレージング ぐれーじんぐ

glazing

焼成した陶材表面につやを与えることによって、審美性を向上させること。低溶融のグレース材を塗布してこれを焼成する方法と、陶材自体を高温で焼成してつやを出す方法とがあるが、最近では後者の製品が多い。

281 クレオイド くれおいど

cleoid

手用切削具の1つ。齲蝕象牙質の除去に用いられる他、アマルガムの形成やワックスパターンの彫刻などにも使用される。形態はスプーンエキスカバーターに近似しているが、刃部はとがった爪状を呈し、引いて使用する。

282 クレビス くれびす

crevice

セメントの溶解や摩耗により形成されるセメントラインの溝状のへこみ。合着後、経時的に深く顕著となり肉眼でも認められるようになる。深いクレビス形成によって陶材インレーやレジンインレーの辺縁の支えが失われ、辺縁破折が引き起こされる。

283 クロロエチル くらろえちる

chloroethyl

→エチルクロライド

284 クロルヘキシジン くらるへきしじん

chlorhexidine

1954年にDaviesらによって合成された抗菌薬である。グラム陽性およびグラム陰性菌に広く抗菌作用を示す。グラム陽性菌に対してより効果的である。抗酸菌、芽胞およびウイルスには無効である。

生成する。コンポジットレジンが多くがマトリックスレジンとして Bis-GMA を含有している。

854 非弾性印象材 ひだんせいいんしょうざい

non-elastomeric impression material

石膏，酸化亜鉛ユージノール，モデリングコンパウンドがある。非弾性，不可逆性のため全部床義歯の印象に用いられる。石膏は印象材として普通石膏を用いた印象で，硬化時間の調節，硬化膨張を小さくする調節剤が加えられている。酸化亜鉛ユージノールは酸化亜鉛とユージノールの混合ペーストを用いている。練和が容易で，流動性に優れ，軟組織を圧迫，変位させることなく精密な印象が採得でき，寸法安定性にも優れている。モデリングコンパウンドは熱可塑性で加温軟化して使用する。流動性が悪く印象法としては圧迫印象となる。

855 ビッカース硬さ びっかーすかたさ

Vickers hardness

同義語 HV, VHN

頂角の対面角が136°のダイヤモンド正四角錐の圧接子を用い，試料面にピラミッド形のくぼみをつけたときの荷重を圧痕の対角線の長さから求めた表面積で割った値をビッカース硬さとする。

856 引張強さ ひっぱりつよさ

tensile strength

引張試験で破断に至るまでに示した最大荷重を，試料の断面積で除した値をいう。脆性材料ではダイヤモンド引張強さ試験で求める。接着性修復材料では，引張接着強さで接着強さを評価する。被着試料と接着後に両側から引張り，2つの物体の接着部を破壊するのに必要な力の強さで表す。

857 被覆形 ひふくけい

covering form

歯冠のすべてもしくは大部分を修復物で覆う形の保持形態。修復物の相対する2つの側壁が歯質を把持することにより，把持効力あるいは側方脱出力に対する拘止効力が発揮され，修復物の保持がはかれる。

858 被膜厚さ ひまくあつさ

film thickness

合着時のセメントの流動性を表す指標の1つで，一定容積のセメント泥をガラス板で挟み，一定時間，一定荷重で加圧して得られたセメント被膜の厚さをいう。ISO規格で25 μ m以内と規定されている。練和時の粉液比と環境温度，練和終了後からの経過

時間，装着時の加重，表面粗さや外開き型などの被着面の状態，などが被膜厚さに影響する。

859 被膜裏層 ひまくりそう

thin film lining, cavity lining

同義語 塗布裏層

天然樹脂，接着性レジンなどを用いて，菲薄な層で窩洞形成面を覆う方法。比較的浅い窩洞に応用され，象牙質知覚過敏や唾液による汚染予防を目的とする。キャビティーバーニッシュやレジンコーティング材などが臨床で多く用いられている。

860 非ユージノールセメント ひゆーじのーるせめんと

non-eugenol cement

同義語 酸化亜鉛非ユージノールセメント

粉末の主成分は酸化亜鉛であるが，液の主成分がユージノールではなく高級脂肪酸を使用しているセメント。根管充填用セメントあるいは仮着用セメントとして用いられている。以前はユージノール系のセメントが根管充填や仮着用に用いられていたが，遊離ユージノールが組織刺激性やレジンの重合阻害作用を有するため，現在では一般に非ユージノールセメントが用いられている。

861 表在性齲蝕 ひょうざいせいしゅうしょく

superficial caries

歯の表面で広がる，広く浅い齲蝕をいう。

862 標準稠度 ひょうじゅんちゅうど

standard consistency

一般に，練和物が既定の範囲内の広がりを示したときに，これを標準稠度という。練成材料では粉液比がその物性に大きな影響を及ぼすことが考えられ，標準稠度とした練和試料で諸物性を調べる。

863 表層下脱灰層 ひょうそうかだっかいそう

lesion of sub-surface decalcification,

sub-surface lesion

齲蝕の初期段階にみられ，エナメル質表層（10～20 μ m）下が脱灰されている状態。表層は，唾液中のミネラルによって再石灰化が生じている。臨床的には実質欠損の生じていないエナメル質の白濁として観察され，乾燥させることでより明瞭になる。進行すると，表面が粗造となり，褐色や黒色に色素沈着がみられる場合もある。

864 漂白剤 ひょうはくざい

bleaching agent

過去には次亜塩素酸塩やシュウ酸などが用いられ

均一に塗布し、陶材焼成温度以上で加熱し、金属表面にコーティングする。合金と陶材との結合を強固にするためのものをとくにボンディングエージェントと称し、白金粒子が主成分であり、溶着により生じた表面の突起による機械的結合の増大をはかるものである。

1020 **メタルタトゥー** めたるたとー

metal tattoo

歯肉と接触する金属製修復物や補綴装置および支台築造体から溶出した金属イオンが、歯肉内に沈着し、歯肉粘膜が黒褐色に変色した状態。多くの場合、金属イオンは真皮にまで浸透しているため、審美障害がある際には歯肉切除術を施す。

1021 **メタルプライマー** めたるがらいまー

metal primer

金属を表面処理することにより、レジンとの接着強化を目的として硫黄を含むモノマーが使用される。

1022 **メチルメタクリレート** めちるめたくりれーと

methyl methacrylate

同義語 MMA

アクリルレジン（樹脂）の一種で、メチルメタクリル酸を意味する。そのポリマーはPMMAである。1930年代に義歯床用レジンとして開発され、1940年代には常温重合開始剤を配合して成形修復材料としても利用された。現在では、MMAから発展して種々のメタクリル酸エステル類の開発や応用が行われている他、無機質フィラーとの複合化、歯質や歯科材料に接着するレジンへの展開など主要な歯科材料となっている。おもな用途として、義歯床、人工歯、軟性レジン、小窩列溝充填塞材、レジンセメント、矯正用接着材などがあげられる。

も

1023 **モイストボンディング法** もいすとほんでいんくほう

moist bonding system

→ウェットボンディング法

1024 **盲孔**〔歯の〕もうこう

foramen cecum of tooth

上顎切歯舌面窩において、基底結節の内側で歯頸部に向けて深く陥入している孔。歯の退化形の1つ。上顎側切歯に多くみられる。齶蝕の好発部位として

臨床的に重要視される。

1025 **模型材** もけいざい

model material

口腔内の状態を正しく再現するために、印象採得した印象面から陽型を製作するために注入する材料のこと。普通石膏、硬質石膏、超硬質石膏が修復物あるいは補綴装置を製作するための目的に応じて使い分けられる。

1026 **モデリングコンパウンド** もでりんぐこんぼうんど

modeling compound

非弾性印象材の1つで、熱可塑性で加温軟化して使用する。ロジン、コーパル、カルナウパワックスなどの天然樹脂に可塑材としてステアリン酸を加えた混合物に滑石などが充填剤として添加されている。軟化温度は50~60℃で、軟化方法には直接火炎にかざして軟化する乾熱法と湯のなかで軟化する湿式法がある。流動性が悪く印象法としては圧迫印象となる。

1027 **モノマー** ものまー

monomer

同義語 単量体

重合反応によってポリマーを形成する最小単位の低分子化合物をモノマーとよぶ。代表的な歯科用レジンであるポリメチルメタクリレート（PMMA）の場合、MMAがモノマーに当たる。モノマーは、重合反応に関与する官能基を1つ以上有している。

や

1028 **焼入れ** やきいれ

quenching

合金の加工を行う場合、溶融温度近くまで加熱し、急冷することで合金が均一に混ざっている状態に近づけることが可能になる。この操作により金属が軟らかくなるため、通常は軟化熱処理とよばれる。しかし、同様の操作を鋼に対して行った場合はその性質は硬さを増す。このため区別して焼入れとよばれる。

ゆ

1029 **有機質複合フィラー** ゆうきしつふくごうふいらー

organic composite filler

粒径0.04 μmのコロイダルシリカや粒径0.2~0.3